

自給自足の生活を目指して——この一年の活動報告

PMS副院長／ジャララバード事務所所長 ジアウルラフマン

私たちの活動地

皆様、お元氣にお過ごしでしょうか。いつも温かいご支援をありがとうございます。

今回は、私たちが活動しているナンガラハル州のことやこの一年の活動報告を記します。

PMSは二二の郡から成るナンガラハル州のジャララバードに事務所を置き、主に三つの郡で活動をしています。二〇〇一年のニューヨーク同時多発テロ事件によって始まった戦争は一昨年八月まで続き、特にナンガラハル州ではスピングル山脈の麓に位置する郡（ヘサラック、シルザド、ホギヤニ、チルアガム、チャプラハル、ロダット、コット、ハスカミナ、ナージャン、ドールババ、アチン、スピングルなど）の人々はこの二〇年間、米軍およびNATO軍によって多くの問題に直面させられてきました。

深刻な干ばつや治安悪化に加え、「全ての爆弾の母 (Mother of All Bombs)」と呼ばれる超強力爆弾をも含んだ爆撃に晒され続けました。住民たちは、家屋や農地が完全に破壊されたために、故郷を捨てて他地域や他国に避難せざるを得ない状況に置かれました。一方、村に残った人々も国や援助機関の

人道支援を受けることもなく、この二〇年間苦しい暮らしを強いられ続けていました。

自給自足のための支援を

二〇二一年八月に外国軍やそれに関連する団体が撤退した現在、ナンガラハル州二郡の治安状況は改善し、他所に避難をしていた住民たちが村に戻り始めています。しかし家屋が破壊されてしまった彼らはまだまだ多くの困難を抱えています。また国際社会からの人道支援が減少し、彼らをさらなる苦境に追いやっています。まるでアフガニスタンには救うべき命が存在していないかのようなですが、実際には少なくとも四千万人が尋常ではない状況下で生きているのです。ほんの一部の国が国連を通じて緊急支援を提供してくれているというのが現状です。今アフガニスタンに必要なのは人々に働く場を提供し、自給自足の生活が出来るようにする支援です。

ドクターサーブ中村は常にこう仰っていました。

「私たちは小麦などの食糧を長期に配給するのではなく、人々が小麦や食糧を生産できる環境を整えてあげたい。そうすれば

人々は自ら食糧を生産し、余剰生産物は市場で売り、自給自足の生活が出来るようになる。そうして国が発展していく。ナンガラハル州のカマ、シェイワ、ベスード、ダラエヌールでのPMS事業は住民の自給自足を促す取り組みの良い手本なのだ」と。

干ばつが進行し、更に新型コロナウイルス感染症拡大がアフガン東部を襲った時、各地でいくつかの支援が行われました。しかしカマとシェイワ郡の住民たちは政府からの食糧援助を辞退し、自分たちには必要ないので干ばつで被災している他の郡の人々に配布して欲しいと要請しました。

アフガニスタンがこれ以上壊滅的な事態に陥らないためにも、政治的な問題は脇に



PMS事業によって村は護られ、緑があふれる(2023年4月10日)

において、アフガニスタンの復興と発展を支える人道支援を国際社会に望みます。

地域住民・政府とPMSの関係

地域住民及び政府機関とPMSの関係は以前から大変良好に保たれています。これはドクターサーブ中村のお考え通り、PMSが政治・宗教的な意図を持たず、常に、人が生きていくうえで必要不可欠である支援を継続しようとしているからです。このことが自然にアフガニスタンの平和へと繋がっていることは広く知られています。

「政権は変わっても人は変わらない。最善を尽くしていれば、その行いは必ず人の心に刻まれるはずだ」とドクターサーブ中村は常に仰っていました。まさにこのことが私たちと住民・政府との良好な関係に反映されていると言えるでしょう。

ドクターサーブへの愛情は、人々の心にそして各家庭に深く浸透しています。アフガニスタンでは人の名前を冠した公園は一つもありませんが、ジャララバード市とベスド橋の間にはナンガラハル州政府が認可し合法的に造られた、ドクターサーブ中村の写真が大きく掲げる公園があり、私たちの大きな誇りとなっています。

日本の皆様を大歓迎

昨年十二月と今年三月に日本からPMS支援室や技術アドバイザーの方々やナンガラハル州を訪問されました。

十二月の訪問では二〇日から二九日まで

滞在されましたが、アフガニスタンへの入国時はトルハム国境でアフガン政府高官たちと住民が皆さんを温かく歓迎しました。日本からの皆さんは全く危険を感じることもなくトルハムから事務所へ移動され、活動地のバラコット、カマ、ベスド、シェイワ、ドラエヌールの事業現場を視察されました。事業が完了した現場、現在進行中の現場、さらには将来的に工事を計画している地域を回られ、いずれの地においても住民から心のこもった歓迎を受けました。住民からは皆さんに贈り物が手渡され、更なる協力への願いが伝えられました。

二回目の訪問は、二〇二三年三月三日から四月二六日までナンガラハル州に滞在されました。この時は政府の協力でPMSジャララバードオフィスへの滞在が許可され、ラマダン月（断食月）にあっても毎日現場へ行くことができました。バラコット、カマ、カチャラ、バルカシコート等の取水口、マルワリード用水路の取水口からガンベリ農場のある終着点まで、ドラエヌール診療所と全事業地を視察されましたが、現地の治安状況に全く問題がないことに大変安心なさいました。また全ての視察先で住民から温かい歓迎を受けておられました。

ナンガラハル州の現況

◎天候…今年度は去年に比べ、さほど暑くなく過ごしやすい天候が続いています。豪雨はありませんが、神の御加護でPMSの現場はどこにも大きな被害は出ませんでした。

しかし、この豪雨によりカマ郡で鉄砲水が発生し、十人が死亡、二五家屋が倒壊、五〇〇ヘクタールの農地が損害を受けました。

◎市場…これまでのところ、ナンガラハル州の市場では生活必需品や食糧、建設資材、医薬品、医療器材など、パキスタン、イラン、トルコ、ウズベキスタン、カザフスタンからの輸入品に品不足は起きていませんが、価格高騰が見られます。

◎銀行システム…米政府によるアフガン資産凍結以降、銀行システムに問題が生じています。国際社会がアフガニスタンとの外交を中止したために銀行資産の取扱い方法が変更され、一般企業や団体組織、個人が口座にアクセス出来ず大変困った状況です。米国はじめ国際社会がアフガニスタンへの取り組み方を変えれば、この問題は解消し、貧困に苦しむ国民の生活も大きく改善するのですが。

PMSの活動について

PMSの活動は通常通り継続しており、住民や政府との問題も特にありません。医療、農業、灌漑設備の維持管理事業と同様、バラコット用水路建設も順調で住民はPMSの事業に大変協力的です。

◎医療事業…一日あたり患者一五〇〜二〇〇名に無料診療を提供。

◎農業事業…政府から貸与された約二三〇ヘクタールのガンベリ農場で果樹・小麦・米・野菜の栽培、養蜂、畜産事業を実施。毎年小麦を約四〇〇ヘクタール、米を十ヘク



作業員の給料日。毎日懸命に働く作業員へ、労いの言葉とともに給料が支払われた。(2023年4月9日)

タールに栽培しています。酪農では毎日一〇キロの牛乳を市場に出荷。植樹では二〇二二〜二三年にかけて約二万三千本の果樹や樹木を植えました。

◎堰・用水路の維持管理…当事業では取水口及び用水路全般を観察。今年は豪雨と洪水に見舞われたものの取水口に大きな被害はありませんでした。小規模な損壊部分を改修し、大洪水の際にも問題は起きていません。護岸線に植樹するとその根が土壌を強固にして洪水に強くなるため、植生工を組み合わせています。また取水口の管理を地元住民へ移譲している施設では、彼らが集めた管理費を改修が必要な時に活用出来るようになっていきます。

◎バラコット灌漑事業…戦争被害が酷かったにも拘らず、復興支援が一度も実施されなかったコット郡で開始したもので、PMS事業の中でも最も大きな効果を生んでいる事業の一つです。現在、この村から二〇〇名が作業員として働いています。まとめて労賃を支払ったところ「これは一体何ですか？」と尋ねるので「あなた方の一ヵ月分の労賃ですよ」と答えました。すると彼らは目に涙をたたえ、この二〇年間で労働に対して賃金をもらったのはこれが初めてだ、と嬉し泣きをしていました。

*

PMSとその職員を代表して、私たちアフガン人が苦しみに押し潰されそうな事態に陥る度に支えて下さった皆さまに心から深くお礼を申し上げます。

私たちはどのような状況下においても皆様からの支援を無駄にせず、透明性をもって困窮する人々に支援を届けることをお約束します。これはドクターサーブ中村が強く願われていたことでもあります。

日本とアフガニスタン両国民の友愛がこれまでと同様、末長く続きますように。そしてドクターサーブ中村がいつまでも人々の心に刻まれ続けていきますように。